

第2回 横浜市磯子区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会（第1日目） 議事録	
日 時	令和2年4月6日（月） 午前9時00分から午後3時25分まで
開催場所	磯子区役所7階701会議室
出席者	<p>【選定委員会委員】</p> <p>委員長 影山 摩子弥（横浜市立大学国際教養学部教授）</p> <p>委員 澤岡 詩野（公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団主任研究員）</p> <p>荒木 弘行（東京地方税理士会横浜南支部税理士）</p> <p>小宮山 滋（社会福祉法人磯子区社会福祉協議会会長）</p> <p>岡 道子（横浜市磯子区連合町内会長会会長）</p> <p>荒井 章代（磯子区民生委員児童委員協議会会長）</p> <p>岩崎 千代子（磯子区地域子育て支援拠点「いそピヨ」代表）</p> <p>河村 良昭（横浜市磯子区精神保健福祉家族会 なぎさ会会長 （磯子区社会福祉協議会当事者団体部会部会員））</p> <p>【事務局】</p> <p>磯子区福祉保健センター長 新井 勉</p> <p>磯子区福祉保健センター担当部長 石井 誠一</p> <p>磯子区福祉保健課長 大山 尚久</p> <p>磯子区高齢・障害支援課長 見村 めぐみ</p> <p>磯子区福祉保健課事業企画担当係長 栗原 明日香</p> <p>磯子区総務課担当係長 金子 佳与子</p> <p>磯子区高齢・障害支援課担当係長 芦澤 美穂</p> <p>磯子区高齢・障害支援課地域包括ケア推進担当係長 北山 智基</p> <p>磯子区福祉保健課事業企画担当 鹿志村 友香、渡邊 竜也</p>
欠席者	無し
開催形態	非公開
議 題	<p>1 開会あいさつ</p> <p>2 各地域ケアプラザの応募状況</p> <p>3 議 題</p> <p>(1) 審査方法について</p> <p>(2) 面接審査</p> <p>ア 根岸地域ケアプラザ</p> <p>イ 滝頭地域ケアプラザ</p> <p>ウ 磯子地域ケアプラザ</p> <p>エ 屏風ヶ浦地域ケアプラザ</p> <p>オ 新杉田地域ケアプラザ</p>

	<p>(3) 指定候補者の決定</p> <p>4 今後のスケジュールについて</p> <p>5 閉会</p>
<p>決定事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 審査方法について、前期指定管理業務の実績の評価にする考え方、タイムスケジュールを決定した。 ・ 指定管理者の候補者（以下「指定候補者」という。）及び指定候補者を指定管理者として指定できない場合に指定候補者に代わって指定候補者となる者（以下「次点候補者」という。）として、次のとおり、横浜市磯子区長に報告することとする。 <ol style="list-style-type: none"> 1 横浜市根岸地域ケアプラザの指定候補者及び次点候補者 指定候補者：社会福祉法人訪問の家 次点候補者：無し 2 横浜市滝頭地域ケアプラザの指定候補者及び次点候補者 指定候補者：社会福祉法人竹生会 次点候補者：無し 3 横浜市磯子地域ケアプラザの指定候補者及び次点候補者 指定候補者：社会福祉法人横浜市福祉サービス協会 次点候補者：無し 4 横浜市屏風ヶ浦地域ケアプラザの指定候補者及び次点候補者 指定候補者：社会福祉法人伸こう福祉会 次点候補者：無し 5 横浜市新杉田地域ケアプラザの指定候補者及び次点候補者 指定候補者：社会福祉法人電機神奈川福祉センター 次点候補者：無し
<p>議 事</p>	<ol style="list-style-type: none"> <u>1 開会あいさつ</u> <u>2 各地域ケアプラザの応募状況</u> 事務局から、公募の結果、7施設に対して8団体（内1団体は2施設に対して応募）から応募書類の提出があった旨を報告するとともに、次の点について確認した。 （事務局） <ul style="list-style-type: none"> ・ 資格要件について、「暴力団又は暴力団経営支配人等ではないこと」に関して、神奈川県警に照会した結果、該当しないとの回答を受けた旨や市税納付状況等の確認を行った結果、資格要件を満たしている旨を報告。 <u>3 議題</u> <ol style="list-style-type: none"> (1) 審査方法について 次の点を確認と決定した。

- ・タイムスケジュール（決定）

面接審査は、法人によるプレゼンテーション 15 分、質疑応答 15 分、結果記入 15 分の合計 45 分とする。（第 1 回選定委員会の決定内容から時間配分を変更）

- ・最低制限基準の考え方（確認）

前期の指定管理業務の実績の配点を除いた点数の 60%以上とする。

〈現運営法人・新規参入法人とも同じ〉

施設名	① 根岸・滝頭・新杉田	② 屏風ヶ浦・上笹下	③ 磯子・洋光台
最低制限基準 (60%)	1,440	1,416	1,392

- ① 敷地内に合築施設あり・通所系サービス事業あり
- ② 敷地内に合築施設あり・通所系サービス事業なし
- ③ 敷地内に合築施設なし・通所系サービス事業あり

- ・同点者が出た場合の扱い（確認）

応募法人が複数ある場合、同点時は、委員長を除く委員で採決を行う。
それでもなお同数であれば、委員長が決することとする。

- ・財務状況の評価に関する考え方（確認）

横浜市健康福祉局が外部評価（A～C）を行う。この結果を参考とし、磯子区選定委員会の財務状況審査者の評価を選定委員会としての評価とする。

- ・前期の指定管理業務実績の評価に関する考え方（決定）

ア 前期の指定管理業務の実績

第 1 回選定委員会で決定した内容（①）に②を加えて評価する。

①前期事業実績評価

毎年磯子区が行う「地域ケアプラザ事業実績評価」の結果を基に、事務局が事前に算出した点数を報告する。

<算出方法>

過去 3 年間（平成 28～30 年度）の評価（S、A、B の三段階評価）の合計点

評価	内容	点数
S	特筆すべき実績・成果が認められ、事業の実績が優良な施設	+ 5 点
A	事業の実績が良好であった施設	0 点
B	改善の必要性が多数認められ、事業の実績が良好でない施設	- 5 点

②発生した事故等

過去 4 年間（平成 28 年度～令和元年度）に地域ケアプラザで発生した事故等について

て、事故等の重大度、対応、再発防止策等を考慮し、事務局が事前に算出した点数を報告する。

<算出方法>

基準	点数
下記に当てはまる ・過去4年間で事故等が1件もない	+5点
下記のすべてに当てはまる ・過去4年間で個別記者発表となるような重大な事故は1件もない ・事故等発生時の対応や再発防止策が適切であった	0点
下記のいずれかに当てはまる ・過去4年間で個別記者発表となるような重大な事故が1件以上発生している ・事故発生時の対応や再発防止策が不適切であった	-5点

①と②を合計した点数を「前期の指定管理業務の実績」の選定委員会としての評価とする。

ただし、各委員の点数は「-15点~15点」の間とし、-15点を下回るまたは15点を超える場合でも、最低点を-15点、最高点を15点とする。

イ 「職員配置状況」については、各地域ケアプラザの年度ごとの「精算書」に基づき、職員の年間の不在日数から事務局が事前に算出した点数の報告を受け、選定委員会としての評価とする。

<算出方法>

過去3年間の常勤職員充足率が「97.25%」以下だった場合、-5点とする。

・前期の指定管理業務の実績の評価を行うタイミングについて（決定）

複数法人から応募があった場合、当該施設に応募したすべての団体における「前期の指定管理業務の実績」を除く評価が終わった段階で、「前期の指定管理業務の実績」に関する資料を配付し、事務局から事前に算出した点数を報告する。選定委員による評価がすべて終わった段階で、現運営法人がどの応募団体なのかを公表し、「前期の指定管理業務の実績」の評価結果を当該団体の評価に加算する。

(2) 面接審査

ア 横浜市根岸地域ケアプラザ

(ア) プレゼンテーション

団体から、団体の概要、事業計画等について説明

(イ) 主な質疑応答

(委員) ボランティア登録について、1年以上活動のない団体・個人は登録を外すこととしているとのことだが、担い手が減っている中では、このよう

な方へもう1度活動していただくよう働きかけが必要だと思うがどうか。

(団体) 記録は残っているので、これまでの活動に関連のある事業を紹介するなど呼びかけをしていきたい。

(委員) 支えあいの仕組みづくりについて、地元の商店や民間の企業などとは連携しているか。

(団体) コンビニエンスストアに働きかけているが、法人本部の考え方もあるようで、難しい。スーパーでは、認知症サポーター養成講座を従業員に受けさせてくれているところやパンフレットを設置してくれるところがある。不動産屋では、家賃の集金とともに安否確認をしてくれているところがある。また、警察署に認知症サポーター養成講座を行った。今後も、様々なところと連携していきたい。

(委員) 前期から改善していきたい点をあげてほしい。

(団体) ・防災について、もっと具体的に地域を巻き込んだ形でできる防災訓練が必要だと考えている。

・通所介護事業や居宅介護支援において、今後より専門性が必要になってくるので、有資格者を中心に、ケアプラザとして専門性のある通所介護等をおこなっていきたい。

(委員) 応募書類に「生活支援センターから講師を招き」とあるが、年どのくらい実施しているのか。

(団体) ボランティア連絡会の中で心に病のある方についての勉強会を行い、昨年度初めて、生活支援センターの方を講師として招いた。これから連携を強めていきたいと考えているところ。

(委員) 車いすを使用している利用者は多いか。

(団体) 通所介護において、医療やリハビリの進歩もあってか車いす利用者は多くない。車いす使用の方も施設の中では、介助をすることでなるべく車いすを使用しないようにしている。

(委員) 乳幼児への対応について考えを聞きたい。

(団体) まずは「できるだけ親のもとで」と考えている。また、地域の方が一緒に子育てに関わってもらいたいと考えている。現在、地区社協と連携して「のんびりんこ」という乳幼児と親を対象にした事業を行っており、子どもの医療に関わっている職員がアドバイザーとして入っている。

(委員) 環境に優しい企業やLGBTの方に配慮している企業への発注等、SR調達(社会的責任調達)について、方針や基準はあるか。

(団体) SR調達については認識がなかった。地元企業や障害者を雇用している企業からの調達について配慮していきたい。

イ 横浜市滝頭地域ケアプラザ

(ア) プレゼンテーション

団体から、団体の概要、事業計画等について説明

(イ) 主な質疑応答

(委員) 岡村地区と滝頭地区それぞれの地域性を見ながら運営することで、苦労している点などはあるか。

(団体) 岡村地区は地域ケアプラザから遠いので、出向いて事業を実施するようにしている。地域の協力もあり、自治会町内会館等を使って介護予防事業や出張相談等を行っている。

(委員) 様々な世代向けの自主事業があると思うが、自主事業間で連携して世代を跨いだ事業をおこなっている、またはそのような計画はあるか。

(団体) 近隣の保育園との交流があり、事業に参加してもらっている。

子どもを対象とした事業では、親世代だけではなくおじいちゃんおばあちゃん世代にも事業に参加してもらい、集まった方の中で交流をもっている。

(委員) コーディネーターへの研修はどのように行っているか。

(団体) 横浜市でさまざまな研修が用意されているので、積極的に参加させるようにしている。また、日頃から職員とコミュニケーションをとり、進捗状況の確認やアドバイスを行っている。

(委員) 障害者に対する活動はどのようなものがあるか。

(団体) 専門性の高い事については生活支援センターと連携をしている。事業について、障害者向けに吹き矢の事業を行い、現在は自主サークルとなっている。また、障害児者の親が集まる会では、悩みなどに対してアドバイスをするとともに、「親なきあと」について考える機会を設けるようにしている。

(委員) 岡村地区の防災訓練にはケアプラザとして協力しているか。

(団体) 防災訓練には現在は見学しているのみだが、今後は岡村地区、滝頭地区のどちらについても、参加していきたい。

(委員) 施設の利用促進について、分析と対策をどのようにおこなっているか。

(団体) 夜間の利用率が低いため、日中の時間帯に予約が取れなかった団体におすすめしたり、ホームページで空き状況をお知らせしたりするなどしているが、利用率を上げることが難しく、課題と考えている。

(委員) 障害者施設や中小企業への発注は行っているとのことだが、障害者をたくさん雇っている企業や環境を大事にしている企業への発注を行うといった方針はあるか。

(団体) 現状ではできていない。今後はそのような視点をもっていきたい。

ウ 横浜市磯子地域ケアプラザ

(ア) プレゼンテーション

団体から、団体の概要、事業計画等について説明

(イ) 主な質疑応答

(委員) ボランティアの確保をどのようにおこなっているか。

(団体) 貸館の団体登録の際に、活動内容をよく聴きとり、活動を地域の中でも生かしてもらえよう、ボランティアについて投げかけをするようにしている。また、窓口でのやり取りでも、その方がボランティアにつながらないかを意識している。

(委員) そのような方法で実際に確保できているか。

(団体) できている。1つの団体で活動をしていた方が別の団体でも活動することで、ボランティア団体同士が情報交換をし、さらに活動が広がるといった効果もある。

(委員) 地区内には丘陵地があるが、ケアプラザまで出て来られない人へのアプローチ方法は。

(団体) 高台にある会館で出前講座を行っており、民生委員の方に周知の協力してもらっている。さらにそこから活動の自主化も目指して事業を行っている。

(委員) ケアプラザを知らない人にもホームページを見てもらうための工夫はしているか。

(団体) スマートフォンでも見られるように改善中である。また、ホームページだけではなく、民生委員や保健活動推進員、ヘルスマイト等とのつながりをとおして、いろいろな方にケアプラザを知ってもらえるようにしている。

(委員) 子ども食堂を行っているが、場所の提供だけしているのか。

(団体) 立ち上げの時から現在まで活動をサポートしている。場所提供と広報はケアプラザで行っている。

(委員) 外部の団体はどのくらい使用しているか。

(団体) 登録団体は約 80 団体。ケアプラザの主催事業は年間 30 数事業。

(委員) 中小企業の中でも、障害者をたくさん雇っている企業や環境を大事にしている企業など、地域に貢献している企業への調達を行っているか。そのための基準はあるか。

(団体) 基準については、中小企業優先という法人全体の基準で行っている。また、横浜型地域貢献企業のリストにある 1 企業と、事業において連携している。

エ 横浜市屏風ヶ浦地域ケアプラザ

(ア) プレゼンテーション

団体から、団体の概要、事業計画等について説明

(イ) 主な質疑応答

- (委員) IS09001 を取得しているとのことだが、ホームページに掲載されていないか。なぜか。
- (団体) 法人としてホームページのリニューアル中であり不備があったと思う。改善したい。
- (委員) 夜間の施設利用状況と対策を教えてください。
- (団体) 多目的ホールは埋まっているが、地域ケアルームとボランティアルームの2部屋はどちらかが空いている状況。夜間は子どもや高齢者が使いづらいことが原因と考えている。ケアプラザの広報紙を4月からリニューアルし、空き情報の周知に活用している。
- (委員) 旧住民と新住民、また世代間の融合についてどのような事業展開をしているか。
- (団体) 引っ越してきた若い母親がケアプラザを訪れてくれることが多いので、その後のつながりが持てるようにしている。今年度は、月1回多目的ホールを子どもとママに開放して交流を図る事業を企画している。また、高齢者の保育ボランティアを積極的に入れている。
- (委員) 生活支援センターや地域活動ホームいぶきとの連携について教えてください。
- (団体) 生活支援センターは同じ建物内にあるので、その都度情報交換をしているが、2か月に1回定期的な会議も設けている。また、いぶきとは、いぶき主催の会議に参加するほか、常に連絡を取り合っている。
- (委員) 人権に関する研修や外国人を雇用するなど良い取組をしている。職員のLGBTの方への配慮はあるか。
- (団体) 法人にLGBT等の知識に長けた担当者があり、各施設や本人と面談等をしている。また、施設長の理解が重要だと考えている。

オ 横浜市新杉田地域ケアプラザ

(ア) プレゼンテーション

団体から、団体の概要、事業計画等について説明

(イ) 主な質疑応答

- (委員) SDGs のゴール 17「パートナーシップ」はケアプラザにとっても重要である。そこで、調達方針について、社会的配慮をしている企業へ発注するというような、方針を立てているか。
- (団体) 設備・管理については、地域ケアプラザの職員ではなく、法人から担当職員を置いて、法人として行っている。しかし、明文化した方針はないので今後検討していきたい。
- (委員) 立地的にも夜間の利用は多いかと思うがどうか。
- (団体) 仕事の後に利用する方も多く、夜間の利用は多い。ケアプラザの普及啓発のためにも、夜間帯に利用できることのアナウンスもしている。

(委員) ケアプラザ、ぽこ・あ・ぽこ、新杉田地域交流スペースと3つある施設だが、管理は大変か。

(団体) 施設全体として連携が重要と考えている。

(委員) 子育て中の母親が地域の一員としてボランティア等を行いたいというニーズがあると聞くが、ケアプラザとして何か働きかけをおこなっているか。

(団体) 多世代交流が大切だと考えている。子育て中の母親の居場所づくりをしており、そこを利用した母親が、次は担い手として次の母親のサポートができるようにしている。

(委員) 子ども食堂は地域交流スペースでやっているのか。

(団体) そのとおり。ケアプラザの調理室も利用している。

(委員) 職員と半年に1回の目標管理を行っているのは良い取組。求められる目標と職員本人の目標にズレがある場合、どのように対応しているか。

(団体) 職位に応じた役割ができるよう指導している。また、面談はコミュニケーションの場と考え、職員とキャリア形成や課題についてよく話すようにしている。また、キャリアパスに関する制度について職員からアンケートをとり改善につなげている。

(委員) ヒヤリハットがあった場合、どのようにしているか。

(団体) 朝と夕方のミーティングで共有している。また、法人として苦情解決委員会を月1回行い、情報の共有、対策の検討をしている。些細な事でも対策を検討し、大きな事故につながらないようにしている。

(3) 指定候補者の決定

プレゼンテーション及び面接審査並びに事務局から前期の指定管理業務の実績に係る報告を受けて評価を行い、各委員の評価結果を集計する。

ア 横浜市根岸地域ケアプラザ

	応募団体	評価得点／満点
指定候補者	社会福祉法人訪問の家	1,813／2,520点
次点候補者	無し	—

(審査講評)

- ・ 地域によく出ており、スーパーや不動産会社等と連携するなど、地域の様々な資源と連携している点が評価できる。
- ・ 防災について地域を巻き込んで取組を進めていくことが課題だという認識があり、今後、進めていってほしい。

イ 横浜市滝頭地域ケアプラザ

	応募団体	評価得点／満点
指定候補者	社会福祉法人竹生会	1,815／2,520 点
次点候補者	無し	—

(審査講評)

- ・ 自主活動をしている方が地域の力になるためには、どのような支え方をすればよいかを考えて事業が行えている。ウォーキングをしながらごみ拾いを行うという事業では、取組により健康づくりと地域貢献といった複数の効果が期待でき、工夫した進め方をしている。
- ・ 2つの地区を担当していることで、苦労があると思うが、それぞれの地区の特徴をきちんと把握し、地理的にケアプラザから離れている地区に対しても物理的な距離感がなくなるよう取り組んでいる。

ウ 横浜市磯子地域ケアプラザ

	応募団体	評価得点／満点
指定候補者	社会福祉法人 横浜市福祉サービス協会	1,857／2,440 点
次点候補者	無し	—

(審査講評)

- ・ 応募書類やプレゼンテーションの内容が具体例もあり非常に分かりやすく、これまでの成果や熱心に地域と向き合っていることが伝わってきた。
- ・ 自主事業では多くの世代を巻き込んで行っている。
- ・ ボランティアに対しては、団体同士をつなげるなどのサポートや、新たな担い手の取り込みかたも上手くできている。

エ 横浜市屏風ヶ浦地域ケアプラザ

	応募団体	評価得点／満点
指定候補者	社会福祉法人伸こう福祉会	1,724／2,480 点
次点候補者	無し	—

(審査講評)

- ・ 緻密に地域を分析し、事業の組み立てや地域へのアプローチ方法を考えている。
- ・ 法人として狭いエリアの中で重層的に地域をケアしていくという考え方も評価できる。
- ・ 2つの地区を抱えながら、それぞれの地区の特性をよくつかみ、地域と調整しながら事業を進めていることがうかがえる。

オ 横浜市新杉田地域ケアプラザ

	応募団体	評価得点／満点
指定候補者	社会福祉法人 電機神奈川福祉センター	1,765／2,520 点
次点候補者	無し	—

(審査講評)

- ・ 人材育成の仕組みがしっかりとしており、職員一人ひとりと目標を確認しよくコミュニケーションを取りながら進めている点が評価できる。
- ・ 事故対応やヒヤリハットについて、施設の職員間及び法人内でもきちんと共有し改善が図られている。
- ・ 設備修繕等の施設管理事務を法人の専任職員が行っており、地域ケアプラザとしての事業を進めやすくしている点が評価できる。
- ・ 昨年の台風では被害の大きかった地域でもあるので、災害対策についてももう少し詳しく取組を知りたかった。

指定候補者の得点は、いずれも最低制限基準の 60%以上であるため、選定委員会として社会福祉法人訪問の家他を指定候補者として選定することを決定する。

4 今後のスケジュールについて

5 閉会

1 資料

- (1) 第2回「横浜市磯子区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会」(第1日目)次第
- (2) 横浜市磯子区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会 委員・事務局名簿
- (3) 応募法人一覧・・・資料1
- (4) 第2回磯子区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会タイムスケジュール
・・・資料2
- (5) 審査方法について・・・資料3
- (6) 財務分析結果報告書(磯子1～5)・・・資料4
- (7) 応募法人出席者名簿・・・資料5
- (8) 横浜市磯子区地域ケアプラザの指定管理者の候補者の選定に関する要綱
・・・資料6
- (9) 横浜市磯子区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会運営要綱・・・資料7

2 特記事項

特に無し

資 料
・
特記事項

第2回 横浜市磯子区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会（第2日目） 議事録	
日 時	令和2年4月9日（木） 午後1時00分から4時55分まで
開催場所	磯子区役所7階701会議室
出席者	<p>【選定委員会委員】</p> <p>委員長 影山 摩子弥（横浜市立大学国際教養学部教授）</p> <p>委員 澤岡 詩野（公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団主任研究員）</p> <p>荒木 弘行（東京地方税理士会横浜南支部税理士）</p> <p>小宮山 滋（社会福祉法人磯子区社会福祉協議会会長）</p> <p>岡 道子（横浜市磯子区連合町内会長会会長）</p> <p>荒井 章代（磯子区民生委員児童委員協議会会長）</p> <p>岩崎 千代子（磯子区地域子育て支援拠点「いそピヨ」代表）</p> <p>河村 良昭（横浜市磯子区精神保健福祉家族会 なぎさ会会長 （磯子区社会福祉協議会当事者団体部会部会員））</p> <p>【事務局】</p> <p>磯子区福祉保健センター長 新井 勉</p> <p>磯子区福祉保健センター担当部長 石井 誠一</p> <p>磯子区福祉保健課長 大山 尚久</p> <p>磯子区高齢・障害支援課長 見村 めぐみ</p> <p>磯子区福祉保健課事業企画担当係長 栗原 明日香</p> <p>磯子区総務課担当係長 金子 佳与子</p> <p>磯子区高齢・障害支援課担当係長 芦澤 美穂</p> <p>磯子区高齢・障害支援課地域包括ケア推進担当係長 北山 智基</p> <p>磯子区福祉保健課事業企画担当 鹿志村 友香、渡邊 竜也</p>
欠席者	無し
開催形態	非公開
議題	<p>1 議 題</p> <p>(1) 審査方法について</p> <p>(2) 面接審査</p> <p>ア 洋光台地域ケアプラザ（A法人）</p> <p>イ 洋光台地域ケアプラザ（B法人）</p> <p>ウ 上笹下地域ケアプラザ（A法人）</p> <p>エ 上笹下地域ケアプラザ（B法人）</p> <p>(3) 指定候補者の決定</p> <p>2 今後のスケジュールについて</p> <p>3 閉会</p>

<p>決 定 事 項</p>	<p>指定管理者の候補者（以下「指定候補者」という。）及び指定候補者を指定管理者として指定できない場合に指定候補者に代わって指定候補者となる者（以下「次点候補者」という。）として、次のとおり、横浜市磯子区長に報告することとする。</p> <p>1 横浜市洋光台地域ケアプラザの指定候補者及び次点候補者 指定候補者：社会福祉法人横浜長寿会 次点候補者：社会福祉法人磯子コスモス福祉会</p> <p>2 横浜市上笹下地域ケアプラザの指定候補者及び次点候補者 指定候補者：社会福祉法人ふるさと自然村 次点候補者：社会福祉法人磯子コスモス福祉会</p>
<p>議 事</p>	<p>1 議題</p> <p>(1) 審査方法について 1日目に決定した事項や確認した事項について再度確認をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイムスケジュール ・最低制限基準の考え方 ・同点者が出た場合の扱い ・財務状況の評価に関する考え方 ・前期の指定管理業務実績の評価に関する考え方 <p>(2) 面接審査</p> <p>ア 横浜市洋光台地域ケアプラザ（A法人：社会福祉法人横浜長寿会）</p> <p>(ア) プレゼンテーション 団体から、団体の概要、事業計画等について説明</p> <p>(イ) 主な質疑応答</p> <p>（委員）URのまちづくりが盛んな地区だが、災害時等、URと連携した取組はあるか。</p> <p>（団体）現在は特にはないが、災害時要援護者の見守りの取組等についてURと連携して取り組んでいきたい。</p> <p>（委員）障害支援関係機関等との連携とは具体的にどのようなものがあるか。</p> <p>（団体）洋光台地区内の就労支援施設や区内の障害者施設、生活支援センターと定期的に連絡を取り、連携している。</p> <p>（委員）精神障害に関わるトラブルや相談はどのくらいあるか。</p> <p>（団体）地域ケアプラザへの相談はあまり多くない。</p> <p>（委員）外国籍の方への対応はどのように考えているか。支えられるだけではなく、一住民としてボランティアなどを行ってもらえるような取組があると良いと思うがどうか。</p> <p>（団体）地域ケアプラザを利用している国際交流団体と連携した取組を考えており、地域の外国籍の方に料理教室を開いてもらうことなどを検討している。</p>

- (委員) 周知方法としてSNSを活用しているとのことだが、何か変化はあったか。
- (団体) 母親はSNSをよく見ていると感じる。最近では、体操やウォーキングマップについて掲載したところ、地図を欲しいとの問い合わせもあった。
- (委員) これまでに行った利用者アンケートの中で把握した重要な課題と対応、効果検証について聞かせてほしい。
- (団体) 来館者のエリアを分析し、事業の周知方法の検討に活用した。また、相談スペースへの場所がプライバシーに配慮されていないのご意見があり、改善をした。アンケート結果については、館内の掲示や広報紙でフィードバックしている。
- (委員) サイレントマジョリティーと言われるように、不満があると返って言わない場合もあるので、その点は注意すると良い。

イ 横浜市洋光台地域ケアプラザ（B法人：社会福祉法人磯子コスモス福祉会）

(ア) プレゼンテーション

団体から、団体の概要、事業計画等について説明

(イ) 主な質疑応答

- (委員) 子育て支援について考えを聞かせてほしい。
- (団体) 地域の子育て支援の取組を把握したうえで、関係機関とネットワークをつくりながら、母親が集まれる場をつくるなどの取組を行っていききたい。
- (委員) 男性が社会参加するために、具体的なアイデアはあるか。
- (団体) 地区にある既存の男性向けの会の活用や法人独自の体操であるセラエクサを取り入れた事業、法人の他施設と連携した取組等を考えていききたい。
- (委員) セラエクサを取り入れたいとのことだが、この地区は地区独自の体操があるなど活動が盛んな地区である。どのように融合させていく考えか。
- (団体) 日頃運動をしていない人にどのように運動を始めてもらうかが重要と考えており、セラエクサはそれに役立つと思う。既存の団体にもセラエクサを紹介しながら、運動の展開ができればと考えている。
- (委員) 洋光台地区をどのようにしていくか今後の展開が見えなかったが、洋光台地区の現在の活動を把握できているか。
- (団体) 体操教室や男性向けの料理教室などいくつかの取組は把握しているが、詳細についてはまだ把握しきれていない。今後、区社協や民児協、区役所など関係機関との連携を作りながら、独自の事業展開を考えていきたい。

- (委員) (他施設の運営において行った) 利用者のニーズ把握において把握した重要課題と対応、それに対する評価について事例をあげて説明してほしい。
- (団体) 社会福祉法人の地域貢献の一つとして、地域の方向けに無料の講演会を定期的に行い、その中でアンケートを行った実績があるので、その結果を活用したい。
- (委員) 法人職員は直接雇用職員のみとのことだが、ケアプラザの運営ではアルバイトを雇用する予定はあるか。
- (団体) 現在も臨時職員はいる。ハローワークとの関係も築けている。地域の中で生活に困っている人や障害者、子どもに障害がある母親など積極的に雇用している。

ウ 横浜市上笹下地域ケアプラザ (A法人：社会福祉法人ふるさと自然村)

(ア) プレゼンテーション

団体から、団体の概要、事業計画等について説明

(イ) 主な質疑応答

- (委員) 田中地区のあたりはケアプラザから遠いが出張などはしているか。
- (団体) している。栗木ではサロンも行っている。職員もできる限り地域に出向くようにしている。
- (委員) 障害者に対する取組はどのようなものがあるか。
- (団体) 地域の中に障害のある方はたくさんいるので、障害理解に向けて講座を実施するなどしている。
- (委員) 自治会町内会に加入していない人たちにもケアプラザのことを周知して欲しい。
- (委員) ボランティアの掘り起こしや活動が難しくなった団体・人への支援はどのように行うか。
- (団体) 同じような状況にある団体や人同士を結び付けて、活動が継続できるよう支援を行っている。
- (委員) よこはまシニアボランティアポイント制度について、何か取組を行っているか。
- (団体) ポイントリーダー設置、研修会の開催、ケアプラザでのボランティア活動の受入を行っている。
- (委員) 外国籍の方のごみ出しについて、行政が発行している外国語のパンフレットは施設に置いているか。利用者は多いか。
- (団体) 置いてあるが、手に取る方は少ない。
- (委員) 法人の障害者雇用率はどのくらいか。
- (団体) 法定の雇用率は超えている。
- (委員) 優先調達はしているか。どのような分野で優先調達をしているか。

(団体) 法人では、就労支援B型及びA型の利用者の方を積極的に受け入れている。今後、ケアプラザでも積極的な受け入れをしていきたい。

(委員) LGBTの方への支援は行っているか。

(団体) 法人において、LGBTの大会へ法人職員を出席させたり、研修を行うなど、理解を深めている。

エ 横浜市上笹下地域ケアプラザ (B法人：社会福祉法人磯子コスモス福祉会)

(ア) プレゼンテーション

団体から、団体の概要、事業計画等について説明

(イ) 主な質疑応答

(委員) 上笹下地区の特性を生かしてこの地域を活性化していくために、どのように支援を行っていくつもりか。

(団体) 上笹下地区は縦に長く、山坂が多い地形なので、ケアプラザを訪れやすいように送迎を行いたい。また、地区社協が行っている「土とのふれあい」事業と連携して異世代交流を行うなどし、地域を盛り上げていきたい。

(委員) 今はあまり困りごとを抱えていない人たちが地域につながるためのきっかけづくりを、どのようにしたらよいと考えるか。

(団体) 男性のそば打ち教室などがあるが、そのような既存の団体にちょっとしたボランティアを行っていただくなどをすることで、少しずつつながりをつくっていきたい。

(委員) 法人の障害者の雇用率はどのくらいか。

(団体) 知的障害者、視覚障害者、内臓疾患のある方などを雇用している。今後も積極的に雇用していきたい。

(委員) 障害者施設への優先調達についての方針を教えてください。

(団体) 今後、積極的に検討していきたい。

(3) 指定候補者の決定

プレゼンテーション及び面接審査並びに事務局から前期の指定管理業務の実績に係る報告を受けて評価を行い、各委員の評価結果を集計する。

ア 横浜市洋光台地域ケアプラザ

	応募団体	評価得点/満点
指定候補者	社会福祉法人横浜長寿会	1,723/2,440点
次点候補者	社会福祉法人磯子コスモス福祉会	1,629/2,320点

(審査講評) 社会福祉法人横浜長寿会

- ・ 洋光台地区は戸建、UR、市営住宅、マンションと分散型の地域だが、よく地域を分析しており、地域ケアプラザとして、地域づくりという視点がしっかりとしていた。

- ・ 高齢者、子ども、障害者等、地域の多様な方たちにバランスよく対応している点が評価できる。

(審査講評) 社会福祉法人磯子コスモス福祉会

- ・ 特別養護老人ホームの運営経験があり、高齢者への取組は期待できるが、障害者や他分野への取組が見えなかった。
- ・ 法人としての取組はよくわかったが、地域についてもっとよく知り、洋光台地区をどうしていきたいのかという、もう一步踏み込んだ考え方を聞きたかった。

イ 横浜市上笹下地域ケアプラザ

	応募団体	評価得点/満点
指定候補者	社会福祉法人ふるさと自然村	1,700/2,480点
次点候補者	社会福祉法人磯子コスモス福祉会	1,658/2,360点

(審査講評) 社会福祉法人ふるさと自然村

- ・ 地区の特性や状況等、細かいところによく気づいており、横浜市内の法人ではないながら、地道に努力をしている。
- ・ 磯子区を中心から遠く、地区は縦長でケアプラザから離れた地域が多いという特徴があり、周知や事業展開に苦労していると思うが取組に工夫が見られる。
- ・ お祭りや町会の行事にすら出てこない人たちへのアプローチに力をいれていくことを期待する。

(審査講評) 社会福祉法人磯子コスモス福祉会

- ・ 特別養護老人ホームの運営経験があり、高齢者への取組は期待できるが、障害者や他分野への取組が見えなかった。
- ・ 地域に貢献したいという思いは良く伝わってきたが、急いで準備した印象があり、もっと上笹下地区の地域活動等を知り、利用する側からの視点での支援方法を考えてほしい。

指定候補者の得点は、いずれも最低制限基準の60%以上であるため、選定委員会として社会福祉法人横浜長寿会他を指定候補者として選定することを決定する。

2 今後のスケジュールについて

3 閉会

資 料
・
特 記 事 項

1 資料

- (1) 第2回「横浜市磯子区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会」(第2日目)次第

- | |
|---|
| <p>(2) 横浜市磯子区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会 委員・事務局名簿</p> <p>(3) 応募法人一覧・・・資料1</p> <p>(4) 第2回磯子区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会タイムスケジュール
・・・資料2</p> <p>(5) 審査方法について・・・資料3</p> <p>(6) 財務分析結果報告書（磯子6～8）・・・資料4</p> <p>(7) 応募法人出席者名簿・・・資料5</p> <p>(8) 横浜市磯子区地域ケアプラザの指定管理者の候補者の選定に関する要綱
・・・資料6</p> <p>(9) 横浜市磯子区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会運営要綱・・・資料7</p> |
|---|

2 特記事項

特に無し